



心理学研究科 心理学専攻(博士後期課程)

学位
博士
(心理学)

1年次から一貫した個別指導で博士論文を作成

本専攻では、それぞれの分野において豊富な経験を有する研究指導教員が、1年次から一貫して1対1で博士論文作成指導を行います。さらに複数の異なった研究分野の教員から指導を受けることもできます。また、研究内容の深化や研究能力の高度化を図るべく、学会への参加や学術誌への論文投稿を1年次から積極的に促しています。なお、優れた学術論文を既にして入学した場合、本課程において一貫した研究をまとめれば、修業年限を短縮することも可能です。

▶博士論文テーマ例

博士論文の主なテーマ例は以下の通りです。また、博士論文の要旨を専攻サイトに公開しています。

- セルフモニタリングが健康の自己管理および心理的ストレスに与える影響
- Cosmetic Program の心理的効果に関する研究
- 書記的方法を用いた「対話的自己」と適応に関する研究
- カウンセリングにおける対人関係表現 ～人型シールの開発と応用～
- 終助詞「よ」と「ね」の対人コミュニケーション機能
- 飲食店従業員の感情労働と職務満足感
- 自己志向的完全主義と心理的不健康の関連性に関する研究
- 留学生の動機づけおよび対人関係が異文化適応に及ぼす影響に関する研究
- 日常生活の適応の観点から見たエゴ・レジリエンスの実証的研究
- 片づけ行動の心理学的研究：青年後期と成人初期を対象とした検討

※心理学専攻の博士論文は国立国会図書館に所蔵されています。

▶担当教員の研究指導分野と主な研究領域一覧 (教員の詳しい情報はP22・23をご覧ください)

氏名	博士後期課程における研究指導の分野	主な研究領域
加賀美 常美代	社会心理学	異文化間心理学、異文化間教育学、多文化共生
小野寺 敦子	発達心理学	生涯発達心理学、臨床発達心理学、家族心理学
庄司 正実	健康心理学	社会精神医学、職場のメンタルヘルス
杉本 希映	カウンセリング心理学	学校心理学、臨床心理学
今野 裕之 [※]	社会心理学	臨床社会心理学、人格心理学
河野 理恵 [※]	発達心理学	老年心理学、認知心理学

※ 博士後期課程で学位論文指導の補助ができる教員

人間の心理的特性を総合的に究明する

本専攻は、心理学研究科修士課程の2専攻(現代心理学専攻と臨床心理学専攻)を統合し、修士課程における教育研究をさらに発展させ、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を培うことを目的としています。

具体的には、社会心理学、発達心理学、健康心理学、カウンセリング心理学、臨床心理学という5つの分野を研究の柱として設定しつつ、全体として現代社会の心理学研究に適合した、人間の心理的特性の総合的な究明に資する教育研究、ならびに人材養成を図っています。

ADMISSION POLICY [求める学生像]

〈心理学研究科全体〉 専攻に関わる心理学的方法論を用いて、研究を実践し高度な専門職業人として社会の発展および個人の健康増進に寄与したいと願っている人。

〈心理学専攻(博士後期課程)〉 今日の高度情報化社会における人間心理の複雑化と深刻な問題に専門家として対応できる研究者および実践家を目指す人。

▶授業科目の概要

(2024年度実施内容。2025年度には一部変更の可能性あります)

研究指導科目[必修]

いずれか1科目、12単位

この科目は、5分野から1つを選択し、担当の指導教員による博士論文の指導を、1年間4単位を原則として3年間一貫して履修し、合計12単位を修得するものとします。

心理学研究指導I(社会心理学) 担当:加賀美 常美代

社会心理学領域に関する国内外の研究論文を通して、社会心理学の研究動向、研究方法などを検討し、個別の関心領域の研究を計画・遂行する。学会発表、投稿論文などを含め、博士論文作成に向けて包括的な研究指導を行う。

心理学研究指導II(発達心理学) 担当:小野寺 敦子

発達心理学・家族心理学の領域について研究者としての専門性を身につけ、博士論文を提出できるように一貫した指導を行っていく。日本のみならず海外での新しい研究動向を積極的に紹介し、それらを学生自身の研究に取り入れ学会発表や学術誌への投稿に繋がるようにアドバイスをっていく。

心理学研究指導III(健康心理学) 担当:庄司 正実

健康に関連する心理学を題材とした論文作成を指導する。従来の論文の展望、研究計画の作成、研究の実施などを指導し、学会発表および投稿論文執筆ができることを目指す。質問紙調査法、面接調査法、実験研究法などが使えるようにする。

心理学研究指導IV(カウンセリング心理学) 担当:杉本 希映

臨床心理学分野、特に学校心理学領域での学位論文作成のための指導を行う。研究計画、方法、分析、論文執筆における研究者としてのスキルを習得し、学会発表や論文投稿を通して学位論文作成を目指す。

心理学研究指導V(臨床心理学) (2024年度は開講せず)

臨床心理学領域における学位論文作成のための指導を行う。内外の研究論文を精査し、研究テーマ、方法論を確定する。学会における研究発表、投稿論文執筆を行い、研究者としてのスキルを修得する。

特殊研究科目[選択]

3科目、6単位以上

この科目は研究指導教員の助言の下で、1年次から3年次の間に適宜、履修するものとします。

社会心理学特殊研究 担当:加賀美 常美代

異文化接触で生じた対人葛藤や葛藤解決行動、それらに関連する文化的価値観などをテーマに、社会心理学的研究の理論と方法、実践について国内外の文献講読を通して、各自の研究課題を深め検討する。

社会心理学特殊研究 担当:今野 裕之

社会的自己、対人関係などを中心テーマにして、社会心理学を研究するための応用的な学習と隣接領域の研究をサポートする社会心理学的な視野の陶冶に努める。

発達心理学特殊研究 担当:小野寺 敦子

生涯発達心理学の視点に立ち、人間の発達に関する研究を検討していく。胎児期から高齢期までの新しい研究動向や研究知見を内外の文献を読みながら明らかにし、各自の研究を深めていく。

発達心理学特殊研究 担当:河野 理恵

生涯発達心理学の視点に立ち、特に成人期から老年期に関する論文や書籍を通して心理学的研究の背景や理論、研究方法、及び研究結果とその応用について理解し、各自の研究に繋げていくことを目指す。

健康心理学特殊研究 担当:庄司 正実

面接法による精神医学的診断、質問紙法によるうつやストレスの評価方法などを理解し、実際の研究に活用できるようにすることを目指す。

カウンセリング心理学特殊研究 担当:杉本 希映

児童期から青年期にかけての臨床心理学における文献を講読し、最新の研究動向や課題に対する知見を深めることを目指す。その上で、各自の研究課題について検討していく。

臨床心理学特殊研究 (2024年度は開講せず)

医療領域における心理臨床、特にサイコオンコロジーをはじめ、身体疾患に関わる心理学的研究の内外の研究論文を講読し、最近の動向について展望する。医学の進展によって生じる研究課題について理解を深め、その研究方法を検討する。

